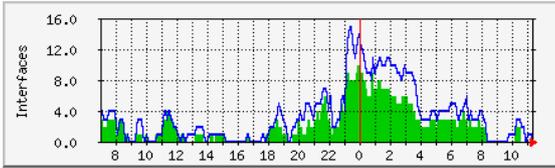


<NS-2484>

回線のUp/Downを監視する手段はたくさんありますが、中でもフリーのMRTGがよく利用されています。MRTGはもともインターフェイスの送信データ、受信データのトラフィックを計測するツールですが、弊社で用意しているスクリプトを利用することにより、簡単に回線のUp/Downが監視できます。(青色の折れ線グラフが総接続数(TAやModem、Piafsの接続合計)、緑色の棒グラフがモデムだけの接続数をあらわ



[このスクリプトは、NS-2484 Version2.2以降でご利用いただけます。Version2.2で追加されたプライベートMIBを利用しております。プライベートMIBに関しては、NS-2484 MIBリファレンス\(PDFファイル\)を参照してください。尚、古いバージョンをご利用のお客様はバージョンアップをおこなってください。NS-2484のバージョンは、versionコマンドで確認できます。](#)

MRTGを利用する手順を以下にまとめます。

1.UNIXマシンにMRTGをインストールする。MRTGは、ほとんどのUNIXマシンで動作します。中でもLinuxやFreeBSDが良く利用されているようです。MRTGは、Perl5やgd、httpd(apache等)を必要としますので詳しくはMRTGのサイトをご覧ください。検索サイトでキーワード「MRTG」で検索するとインストール方法や導入事例など有益な情報を取得することができます。

2.SNMPの情報を収集する為にNS-2484の設定を行う。

<serversファイル>

snmpdを有効にするために先頭の#を外します。snmpdを起動するには、snmpstartコマンドを実行するか、もしくはrebootコマンドで再起動してください。

```
:  
# /share/snmpd -> 先頭の#を外す  
:
```

<snmpconfファイル>

コミュニティを登録します。下記の例では、「siipublic」というコミュニティを登録しております。

```
community siipublic view1
```

[3.回線のUp/Downを計測するスクリプトをダウンロードします。tar形式になっており、展開するとスクリプトとCFGファイルの2つが保存されます。\(mrtg2484.tar\)。](#)

4.ダウンロードしたコンフィグを環境に合わせて修正してください。

5.修正が終了したら、nslnkcnt.plファイルに実行権をつけます(chmod +x nslnkcnt.pl)。

6.下記のようにコマンドを実行し、適切な数値が取得できるか確認を行います。利用状態は、linestatコマンドやmodemstatコマンドをNS-2484上で実行し利用数が合致しているか確認してください。下記のようにModem数、Totalの回線Up数が表示されれば正常に動作しています。

```
/usr/local/mrtg-2/run/nslnkcnt.pl siipublic@192.168.1.1  
  
1 --> Modem数  
2 --> Modem+TA+PIAFS数  
6 day, 0:32:42  
ns2484
```

7.データの定期取得

下記のコマンドを3回実行します。まだデータの保存先ディレクトリを作成していないので若干エラーがでますが無視して3回実行してください。実行後、データ保存先のディレクトリにHTMLファイルやlogファイルが作成されているか確認してください。正常であれば3回実行すると何も表示されないはずですが、FreeBSD等でMRTGがパッケージされている場合は特に注意する必要はありませんが、Linux等でインストールする場合は、MRTGが用意しているPerlライブラリが見つからないというエラーがでる可能性があります。その場合は、MRTGで用意されている(SNMP_Session.pm等の*.pmファイル)をPerl5のlibの下(/usr/lib/perl5/5.00503等)にコピーしてください。

```
mrtg /home/mrtg/ns2484.cfg
```

5分間隔でデータ取得するためにcrontabを下記のように修正します。

```
*/5 * * * * root /usr/local/mrtg-2/bin/mrtg /home/mrtg/ns2484.cfg
```

8.作成したデータ(html)をブラウザで確認し終了です。

<NS-2610、NS-4200>

NS-2610、NS-4200ともにNS-2484の方法と同じですので上記を参考にしてください。